



Title	日本英語検定協会からの受託研究について
Author(s)	岡田, 新
Citation	大阪大学英米研究. 2011, 35, p. 29-30
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99349
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

日本英語検定協会からの受託研究について

大阪大学言語文化研究科言語社会専攻英語部会では、昨年度に引き続き、日本英語検定協会から受託研究を受け入れた。2010年度は、次のような事業を行った。

1. ヨーロッパ標準言語参照枠 (CEFR)に基づくアセスメントテストである BLUTSを、外国語学部1年生、2年生全員に実施。同時にWEBCTを使ったセルフアセスメントも試行した。外国語学部1年生、2年生については、昨年度末の段階でのTOEICなど外部検定試験のスコアデータも蓄積しているため、CEFRとTOEIC、TOEFL、さらにセルフアセスメントの相関、また本学の学生の英語力のプロフィールについて、研究をすすめる土台が形成されつつある。
2. World English Forum と題して、外国語学部生を対象に、カナダ、オーストラリア、アイルランド大使館から講師を招いてそれぞれの国の教育と文化についての講演会を開催した。会場が満杯になる回もあり、学生から英語で活発な質疑が行われた。各国への留学を希望する学生もできしており、英語圏文化の多様性についての学生の認識を深めるうえで一定の成果をおさめた。
3. 工学部の学生、院生を対象に、2週間にわたって集中的な英語によるプレゼンテーション能力養成講座を開催し、11月には修了生によるコンテストを開催した。コンテストでは見事なプレゼンテーションが行われ、修了生の中からは北欧の国際会議で発表したり、賞を受賞する学生もでるなど、新しい分野として確実に成果を上げること成功している。
4. 今年度からはじめた新たな取組として、博士課程前期の英語教育リカレントコースに、英語教育論についての授業を設置した。

この他、2010年2月には、例年どおり、外国語学部生を対象としたエッセ

イコンテスト、プレゼンコンテストを開催する予定である。なお、本受託研究における工学部の院生学生を対象にした英語プレゼンテーション能力養成講座を発展させる形で、文部科学省への概算要求を行うことが検討されている。さらにこれとは別に、理系の学生、院生を対象にした大学を超えたプレゼンテーションコンテストを実施するといったアイデアも提起されている。

来年度も引き続き、様々な取り組みを通じて、CEFRを基礎とした大学英語教育の新たな展開の可能性を模索してゆくが求められよう。

(文責 受託研究担当 岡田 新)